

令和5年度指定管理業務実績評価委員会 議事録

(議事について事務局より説明)(会議の公開、傍聴の許可を決定(傍聴者無し))

○草加委員長

それでは、次第の2、評価項目について事務局より説明をお願いします。

(評価項目について、事務局より説明)

○草加委員長

事務局からの説明に対して、質問等はあるか。

(質問及び意見なし)

○草加委員長

それでは、次第の3、実績についての説明に移る。(1)サービスの向上、(2)管理経費の節減等、(3)団体の業務遂行能力の実績について、指定管理者である公益財団法人神奈川芸術文化財団から説明をお願いします。

(実績について公益財団法人神奈川芸術文化財団より説明)

○草加委員長

ここまで、説明があった内容について、御意見、御質問等はあるか。

○高野委員

資料3の11ページ、管理経費の節減について、指定管理料の中でやっているとAとのことであるが、Sとなることはあるのか。

○事務局(牛嶋GL)

こちらからSをつけることは難しいが、経費削減等の成果を判断することは考えられるが。

○高野委員

芸術文化にはお金がかかるので、予算内に収めたから良い、というものではないと思うが、県の仕組みの中ではやむを得ないかと思う。希望としては、予算をもう少し余裕をもってやっていただけたらもっといい文化振興になるかと思う。

ハラスメントについて、資料3のP14、具体的にどういうことか。

○神奈川芸術文化財団（薄井専務理事）

幹部職員が職員と飲食した際にハラスメントを行った。それについて指導を行ったもの。それに関連して、職員に対しての指導、管理職に対する外部講師による研修を実施したり、新たに外部相談窓口を設けたりした。

○高野委員

大企業でも公益通報制度など色々あると思うが、制度そのものを知らしめることも重要だと思う。相談窓口等の制度そのものを知らしめる、従業員への広報はどうなっているのか。

○神奈川芸術文化財団（薄井専務理事）

最初に、事件が起きたことについて周知した。また、相談窓口を設けたことについて、全職員が見られるグループウェアを通じて、このような相談窓口を作ったことを広報するとともに、会議で周知した。その後、外部相談の窓口を作ったことについてチラシを作り広報した。

○高野委員

公益法人3会計の誤りについて、指導を受けたとは専務が自らを指導したのか。また、誤りの発生について、原因分析をしているのか。

○神奈川芸術文化財団（薄井専務）

副理事長から私が指導を受けた。財務関係の誤りについては、職員の体制が手薄であったこと、上司の見落としもあったことで、本来収支相償でなかったのに収支相償で出してしまった。

○高野委員

誰でもミスはあると思うが、会計事務所があるのならそこでダブルチェックできれば良いと思うが、ダブルチェックできていなかったのか。

○神奈川芸術文化財団（薄井専務理事）

当方で割合を間違えたものを、会計事務所がそのまま受け取ってしまった。そこは事務所との関係ミス、財団の説明ミスだと思っている。

○谷垣内委員

予算の面でA評価とあるが、他館の状況を聞くと昨年度は光熱水費の高騰で、光熱水費が

予算に収まらない、特別な年になってしまったと聞いているが、緊急時の措置などどのように考えているか。

また、時間外労働については避けられず対応しなければならない。なんとかやりくりしなければならないという苦しい立場ということはよく分かるが、原因を追究して改善すべく努力したという、具体的な対策はどういうことをお考えになったのかを教えていただきたい。

○神奈川芸術文化財団（薄井専務理事）

光熱水費については決算で最初の予算より7千万円以上増が出たが、施設改修や細かい小破修繕を後に送る等したのが1点、あとは、県の本年度の6月補正で4,500万円をいただき、そこから今年分を出していくような形となっている。

時間外については、今回の事案は、事業制作に手間がかかったこと。演奏会形式からオペラ形式に変えたことで規模がものすごく大型になって、ダンサーも20人追加するなど、経費もかかる状態になった。それに対してマンパワーの補填などをやっていたかなければならなかった。また、6月に、事業課で中心となっていた課長が転職してしまったことがあり、現場で指揮・判断する職員がいなくなったことなど担当の職員を苦労させてしまった。勤怠管理はしているが、90時間時間外を行ったところで注意喚起をしていたものどうしても間に合わなくなり、結局100時間超となってしまうなど、リスク管理ができていなかった。また、事業量が大きく変化した時にどう対応するか、リスク管理の仕方の検討をしておかなければならなかったが、変化に気がつかず即座の対応ができなかったことが課題と思っている。問題点については理事会・評議員会に報告し、対応としてはまず研修メニューを充実させた。研修だけで全て解決するとは思っていないが、新任課長、一般職員研修、コミュニケーション研修などの研修計画を用意している。また、基本は勤怠管理なので、一定時間を超えた時に、例えば副館長がすぐに対応するなど、体制の組み直しもしている。公演の規模が変わった時には本部にすぐに報告して、本部も入った形で対応を考える。また、事業規模が大きくなりすぎないように、お金、マンパワー等、予算の作成時から指導するようにしている。職員の適正配置についても業務委託でなく正規職員に変えろとか、課長代理で仕切っていたのを課長に仕切ってもらおうとか、新しくプロデューサーを加えて補助支援してもらおうなどの体制は整えた。内部のコミュニケーションも進めている。ただ、労働基準監督署から指導をもらったとかで改善するのではなく、自主的に解決しようとしていることについて、監事からは、その姿勢は認める、とのお話をいただいた。

○佐々木委員

まず、お金のこととして評価がAとなっているが、指定管理料が何に充てられているか、人件費も高騰し、光熱水費や配送料といったものが全て上がっている中で、施設改修の先送り等の他、指定管理料の中で求められているものをやったのであれば評価はSではないか

とも思う。社会情勢の変化に合わせ、指定管理料を上げて良いのではと思った。

アンケートについて、二次元バーコードでの回収率は紙の時と比べてどうなったのか。また、財団のHPでのアンケート結果はどうだったのか。

また、労働環境、1か月で残業が100時間だと、過労死ラインなんじゃないかと思うが、年間の時間外労働の36協定の上限は越えなかったのか。

最後に、割引の関係で、県民割ができてよかったと思うが、令和4年度の実績がいくつかの公演の合計で377件とあるが、これは想定よりも多かったのか少なかったのか、これからまた拡充していくのか。また、若い人向けの割引についての実績も教えてほしい。

○神奈川芸術文化財団（薄井専務）

10月期とか、1月期とかに決算見込みをきちんと出すが、10月期から当初予算から8千万円超える見込みになったので、経費節減など調整して収支相償でできるよう努力した。

○神奈川芸術文化財団（鳥越課長）

県民ホールでは主催事業の際に入口で紙のアンケートを配布しており、その用紙の一番上に二次元バーコードを付けて、Webでも回答できるようにしている。子供向けイベントとかオルガンイベントでは紙媒体での回答が圧倒的に多い。「浜辺のアインシュタイン」や「ドリーム/ランド」のように現代的な事業の場合は紙50、ウェブ50程度の割合であった。

○神奈川芸術文化財団（伊藤館長）

音楽堂は、回収率が多い時で10%程度だが、やはり紙が多い。子供たち向けのイベントだと子供はその場で感想を書くため、どうしても紙媒体でのアンケートが主体になってしまう。

若い人向けの割引については、音楽堂は全主催事業で高校生無料。毎回枚数限定で実施しているが、R4年度の実績では年間182人、平均して1公演あたり20人が利用している。高校へのチラシ配布等で周知した。

○神奈川芸術文化財団（堀内副館長）

KAATでは2018（平成30）年度位までは紙がメイン。その後QRコードに移行して、全体に均すと3～5%の推移になっている。紙とQRコードとどちらが有効かということで申し上げると、ほぼ均衡している状況、つまり、QRコードに変わっても回収率があまり変わらない状況だったが、御意見をいただくためには、QRコードの方が手軽で、集計して運営に活かす作業量が圧倒的に軽減されるのでQRコードの方向で進めたい。

県民割は、今年度は全ての事業を考えている。昨年度の売り上げ枚数377枚というのは販売数全体の3%だったが今年度は4%を超えており、ご好評いただいている。また、メインシーズンでシーズンチケットを販売し、200枚以上売れており、初年度としては想像以上に

好評を得ている。若い世代へのチケットについては1日10枚とか20枚と枚数を決めて販売している。今数字はないが、好評いただいでいて、教育連携で御一緒している神奈川県立神奈川総合高校の皆さんにも利用していただいている。

○神奈川芸術文化財団（薄井専務理事）

月間100時間超の職員については9月に3人いたが、年間を通したら36協定の範囲内に入っている。

○垣内委員

県民割のインパクト、好評とのことだが、財団としてどういう評価をしているのか、周辺部が多いのか、県民割を入れたことによってどういう効果を感じてらっしゃるのか。2点目、他の劇場、地域との連携を随分しており、重要なことだと思う。ただ、神奈川県民全体を対象にするとしても時間的制約もあると思われる。会場の周辺1時間圏内から多くの利用者がある一方で、場合によっては東京から来るなども考えられる。以前は横須賀でオペラやったりしているが、せっかく色んなアウトリーチをしているので、今後どのような展開になるのだろうか。3点目として、基本協定の中にリスク分担が入っているかと思うが、リスク分担の考え方はどうなっているのか。例えばエネルギー価格の高騰のような、事業者単体ではとても対応できない外部環境の大きな変化の場合には協議すると書いているだけで、基本はみんなでシェアしましょうということになるのだろうか。神奈川県の場合はどうなっているか。

○神奈川芸術文化財団（堀内副館長）

県民割は県の在住の方だけでなく勤務されている方も対象にしている。県民割については実際に県民に来てもらうことはもちろん、神奈川県に向けて事業を発信していることを強く押し出し、結果として県民の皆さんをより引き込んで、機会を提供できるというようなものとして強く意識して取り組んでいる。

連携ということについては、演劇・ダンスの事業と、音楽の事業との2つを並走している。演劇事業については長塚芸術監督がカナガワツアープロジェクトという事業を21年度に行い、今年度の冬にも予定をして、25年度にも予定しようとしているが、これはKAATで創作した、演劇作品を、県内の小田原や座間、横須賀など、地域の市町村に出向いてツアーを行い、加えて芸術監督のトークイベントなどを行った。22年度には、今年度に行う事業の準備段階として、4市でアウトリーチを行った。これは一般社団法人地域創造の地域連携プログラムモデル事業であり、県内の施設と連携しながらアウトリーチを行い、その次は事業を持っていくという形になっている。やがては、一緒に作品を作ることも視野に入れながら進めているところである。

○神奈川芸術文化財団（鳥越課長）

県民ホールでは、まず小ホールでオペラを上演して、その後それを県域に巡回した。昨年度実施したものは「ヘンゼルとグレーテル」でピアノ演奏版。元々平成30年に県民ホールで実施したものだが、当初から県域へ出ていくことを想定しながら、クリエイターたちと創作した。

○神奈川芸術文化財団（井上主幹）

平成30年度に改修・休館があったので、その1年間に県内の劇場やホールが無い地域に出向いた。それは、何らかの作品を持って巡回したというのではなく、地域のホールや行政の文化セクションにヒアリングを行って、どういうものが求められているか対話に基づいて、ケースバイケースで、アウトリーチを行ったり、ワークショップのようなものを行ったり、公演を行ったりした。創作した作品をもって回るようなことは、音楽堂は予算的な問題や人力的な問題があって難しい。また、昨年度から本格稼働したのが、「先生のためのアウトリーチ」。地域の先生方の勉強会、教科研究会に所属する先生方を対象に、音楽の授業に生かせ、教材研究に役立つようなワークショップのプログラムを、アーティストと一緒に制作した。

その他、紅葉ヶ丘という地域に着目して、紅葉ヶ丘にある公立文化施設5館で連携して「紅葉ヶ丘まいらん」の取組をしている。

○事務局（高橋文化課長）

指定管理の基本協定では物価変動に起因して増加費用が発生した場合には、基本的には指定管理者が負担することとしているが、基本協定締結時には想定しえなかった物価高騰については、特段の理由が生じたものとして、協議して補填することとしている。

○神奈川芸術文化財団（薄井専務理事）

先ほどの説明で、決算で誤りがあったのは、前年の剰余金を入れるのを忘れたというミスであったので訂正する。

○神奈川芸術文化財団（眞野館長）

今私たちが対応しているのは現状ここまで。私たちの問題意識としては、文化課あるいは文化の課や係がない市町を含めて33市町。そのうち3市は政令指定都市、あとも人口40万人を超える大きな市やそれに準ずる町がある。他県では県庁所在地に匹敵する市もある。限界集落的なところもある。33市町村と財団がどう連携できるか、社会連携ポータル部門を活用し研究しているところである。車で各市町を回り、市役所、町役場等の担当者や市長など上役の方と打合せを行い、可能な限り情報を集め、いかにして市町と最適な協力関係になれるか、をここ2年間話し合いを行っている。なかなか手ごわくて、明確な成果を上げられ

ないところもあるが、ネットワークを一体的に作るという意味において、手を抜くことなく頑張りたいと思う。どこの都道府県もやったことがないことに取り組みたいと思っているし、地域の文化活動・芸術活動に福祉や観光もカバーするような活動はどのようなものであるか、見極めたい幅と思っている。

○小林委員

予算関係については私もSで良いかと思った。色々なことが起きる中で、組織の体制を前向きに考えていることはいいことだと思う。この世界は職人技的で徒弟制度的なところがあり、むしろそれだからこそ質が保ててきた部分があるが、そういうやり方だと若手は集まらない。質を保ちながら、近代化していくことがそれなりに重要だと思う。それを神奈川県がこの財団が率先して行っているのは未来に向かった一つの可能性だと感じた。良い形で実現していくと良いと希望している。

○草加委員長

気付いたところを2点ほど話して終わりたい。

まず、管理経費の節減等について、中項目で、削減努力で、小項目が事業計画の関係になっているので、書きぶりを改める。評価の視点の資料に記載のある、20%削減しないと、加点がもらえないというのは確か県の共通ルールだったと思うが、過大なレベルの削減だと個人的には思う。書きぶりを改めた方が良いのではないかな。

また、労働時間について、残業が月100時間を超えることは気を緩めるとままある。ただし、我々の時代は当たり前だったが、今は労働安全衛生法を守らなければならない。働いている人がそれを苦に思っていないところもあり、その点を本人が納得して調整しないと、頑張っているのに評価されない、と、禍根を残してしまう。いつも陥るジレンマなので、その辺は気を付けてあげてほしい。対策として研修を増やした、というのも限られた労働時間の中では気にかかる。

次に、事務局より、(1)の委員会からのモニタリングの結果について説明をお願いします。

(事務局より説明)

○草加委員長

ただいまの説明に御意見などあれば伺う。改めて見させていただいて、楽しい作品が沢山並んでおり、見逃して残念だったものもあった。それぐらい魅力的なラインナップが並んでいる年度だったような気がするので、ぜひ今年度もそれに引き続いて頑張ってくださいと思う。

続いて、指定管理者の事業実績についての評価に移りたい。

評価の方法は、11項目、ただし、1項目は目標が定まっているということなので、10項

目について、こちらからお声がけするので、Sは極めて良好、Aは良好、Bは一部改善が必要、Cは根本的な改善が必要として、すべからく上手くいっているようであればA、さらに良ければS、問題があるようであればCという風につけていただければと思う。点数の付け方で、Sを付けた委員が4人、Aを付けた委員が2人など、評定を付けた委員の数に差がある場合は、基本的に多数の行邸で委員の評価としたい。項目ごとに委員全員の評価を伺うので、それぞれ挙手をしていただきたい。

まず、Iサービスの向上の1 指定管理業務実施にあたっての考え方、(1)指定管理者としての基本方針等について、評価をお願いします。

では、1ページ目、上段、(1)指定管理者としての基本方針等について、評価をお願いします。

A-6名

全員一致ということで、ここの評価はAとする。

次に、1ページ目、Iサービスの向上の2の施設の維持管理について、(1)施設及び設備の維持管理に関する業務について、評価をお願いします。

A-6名

これもA評価とする。

次に、3の利用促進のための取組、利用者への対応、利用料金の(1)3館一体運営を踏まえた事業実施サービスの向上の取組み、(2)県の文化政策と一体となった自主事業の実施に関する事項、(3)サービスの向上及び利用促進の取組みについて評価をいただきたい。

S-4名

A-2名

ここはSとする。

次は、4つ目の評価である。(1)通常時の安全管理と(2)緊急時の対応について、評価をお願いします。

S-1名

A-5名

ここの評価はAとする。

次に、5の部分。5(1)地域との連携 地元企業の業務委託等について、評価をお願いします。

S-1名

A-5名

ここも評価はAとする。

管理経費の節減に関しては、既に事務局から説明のあった通り、評価はAとなっているので、次に移る。

○事務局（高橋文化課長）

皆様から管理経費に関する部分について、意見もあったので、必ずAでなくても良い。

○草加委員長

決算欄については、違う評価ともとらえられるし、経費削減は取組みが必要でもあるので、その辺の考え方を改めてもらうということで異論なければこのままとしたい。

次に、7（1）実行体制及び委託業務のチェック体制、（2）人材育成、労働環境確保等について、評価をお願いします。

A-6名

ここも評価はAとする。

人材育成環境配慮などについて

A-6名

ここも評価はAとする。

8番目、財政的能力について

A-6名

ここも評価はAとする。

次に、9番目 9コンプライアンス社会貢献（1）から（4）までについて、評価お願ひしたい。

A-6名

ここも評価はAとする。

次に、10 事故・不祥事への対応、個人情報保護について、評価お願ひしたい。

A-2名

B-4名

Bが多いので、委員会の評価としてはBとする。

最後、11 これまでの実績について、評価お願ひしたい。

A-6名

ここも評価はAとする。

総合評価としては

S1、A9、B1。総合評価としてはAが妥当かと思うがいかがか。

○全委員

了解。

○草加委員長

全体を通して、最後の総合評価については、Sが1つ、Aが9つ、Bが1ということで、

Aとする。

今の全体を通した評価の中でお気づきの点、もう少し言っておきたいこと、改善が望まれる点、こういったところは素晴らしいので伸ばしていただきたいなどの御意見があったらひと言ずついただいてまとめとしたい。

○谷垣内委員

見逃した会でとても残念なものが多く、ただ、足を運ぶにはちょっと距離があって挫折してしまうことが多かった。三館連携というキーワードがすごく大事なキーワードになっており、音楽のホールの公演であっても、音楽以外にもダンスやバレエ、本当に色んなジャンルを総合的にキャスティングして制作するという姿勢の公演が目についた。さすが神奈川県横浜という文化度の高さだった。浜辺のアインシュタインは本当に嬉しかった。お金がかかったというのも当然だし、そこまで皆さんが頑張りたいと思った気持ちがそのままステージに伝わってくる、とてもいいものを拝見して嬉しかった。

○垣内委員

この施設は、指定管理料が15億、利用料金5億、外部補助金1億、事業収入3億ということで、日本の公立劇場としては、クオリティが高く、かつ効果的、効率的に予算を執行していると私を含め文化の分野の人は思うだろうが、一方で、広く世界を見ると、パリのオペラ座でさえ半分以上を自分で稼いでいるし、日本で公立文化施設は統廃合を含む効率的運営が10年も前から進んできており、持続できるのか非常に心配している。県民の方々に大事な施設だと十分理解してもらえるようになってもらいたいと思っている。実際、この劇場が提供されているサービスに触れれば、県民の皆さんも納得すると思う。理解を得ることは、非常に難しいということもお話しいただいているが、これをやっていかないと次につながらないと思うので、うまくいくことを期待している。頑張ってください。

○高野委員

全体評価として非常によくやっていると思う。公演などを鑑賞しても質が高く、見て得したな、と思うものもあった。ただ、希望としては、ターゲットとしてお子様や高齢の方向けはあるが、20代～40代向けの公演が少ない。今、クールジャパンというのが前にあったが、オタクとか可愛いとか、そういうものが日本の文化で今すごく注目されている。そういうものがあまりない。特殊な分野なので、これを実際に運営しようとする、人材の問題もあり、どうやるかは難しいが、コミフェスとか、ボーカロイドの発表会みたいなものがある。今のうちの施設でどういうことをやるかはなかなか難しいと思うが、頭の隅に置いて、そういう日本の文化というのも、新しいものが出ているので、ある程度展開していくことも検討してもらえればありがたい。

○佐々木委員

自分からは見に行かなかったであろう様々な舞台芸術にモニターとして触れることができ、知らない世界の舞台を開いた気分。先進的な事業もたくさんあったが、それが満席ないしは満席に近い状況で、固定客が多いのか、皆さん情報をどう得てきているのか不思議に思って感心をしたところ。モニターから外れた後に自分が参加するかは別だが、先鋭的なもの、実験的なもの、あるいは入門者、年少者、初心者なども楽しめる、様々なレベルのものが多数開催されている、このような環境があることは素晴らしいと思うので、これからもこの環境を提供し続けてほしい。県民割引や若年層の割引など、観覧者を増やす取組も引き続き続けていただきたい。先ほど、若年層の割引の中で、高校に声をかけていると言っており、恵まれていていいなと思ったが、横浜中心ではなく県全域で、年少者の人も楽しめるような取組をこれからも進めていただきたい。

県民ホールの休館については、この委員会には直接関係ないとしても、今回の挨拶の時まで話がなかったのは残念だった。この休館によって、廃止ではない、休館であるということだったが、どんなハレーションがあったのか、なかったのかということには興味がある。

○小林委員

今年から委員となった。県民ホールのことは私も気になっており、休館することに加えて、横浜市長選で、劇場を造るプランもなくなった中で、首都圏の中で非常に重要な、芸術発信の地である横浜で大型ホールがなくなる状況は重要な問題であると思う。県だけの問題ではなく、政令市などと、文化芸術の普及・振興として、連携して対策を考えていく必要があるかと思う。秋田でも、県市で連携して素晴らしいホールを造っている。そういう事例も出てきており、今までの劇場の造り方と違う方向性が出てきていると思うので、そういった方向性を模索しながら、より充実した文化環境を作ってもらえるよう県に要望したい。財団の方々には、財団があるからこそこういうものに触れられるというのを広く普及して欲しい。

○草加委員長

指定管理期間に三館が一体となって運営をするというのがだんだんと地につき始めてきていると思うし、音楽堂と神奈川県民ホールと KAAT が同じプラットフォームの上で維持できているということが文化の力になっていると思うので、財団の足並みが揃い始めている印象が強くなってきている。一柳先生のレガシーのようなものがちゃんと引き継がれているし、それが財団の力にもなっていると思う。その魅力は神奈川県だけでなく地方の会館にもいばって良いのではないかな。最近、秋田で良いホールができたらしいので、神奈川では良い劇場があると PR するのもシティセールスになるような気がするので、今後考えていただければと思う。神奈川の3つの劇場が末永く繋がっていただけることを希望する。

○高野委員

県民ホールは休館するとのことだが、ぜひ再開して欲しい。

○草加委員長

県民ホール、継続していただければと思う。

○事務局（高橋文化課長）

閉会挨拶（休館の発表の経緯の説明含む）